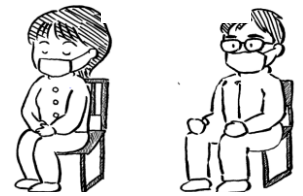


# 新型コロナウイルスワクチン接種における副反応について

～接種後（特に接種直後～数日間）はご自身の体調に注意しましょう～



本ワクチン接種後、施設内で15分～30分程度、体調の様子をみていただき、副反応の症状が現れた場合には、ただちに施設の医師又は看護師等にお知らせください。



## 接種直後～30分以内に起こるかもしれない重い症状（頻度不明）

### ショック、アナフィラキシーが起こる可能性があります。

ワクチン接種直後から、時には5分以内、通常30分以内に

以下の症状が現れた場合には、ショック、アナフィラキシーの疑いがあります。



- 皮膚症状：皮膚のかゆみ、じんま疹、紅斑、皮膚の発赤など
- 消化器症状：腹痛、吐き気など
- 視覚症状：視覚の異常
- 呼吸器症状：声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさなど
- ショック症状：蒼白、意識混濁など



ワクチン接種を受けて帰宅後は、下記の症状に注意してください。

## 接種後数日間、受けた方の10%以上に起こった症状

- 注射した部位の痛み、腫れ
- 筋肉や関節の痛み
- 下痢
- 疲労、寒気、発熱
- 頭痛

### 【症状の発現状況、時期、持続期間など】

- これらの症状の多くは、通常数日で治ります。
- 1回目の接種より2回目の接種時に高い頻度で症状が認められます。また、高齢者よりも非高齢者に高い頻度で認められます。
- 注射した部位の痛みの多くは接種当日に現れ、約2日程度持続します。
- ワクチンによる発熱は接種後1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用いただくなどして、様子を見ていただくことになります。
- 発熱がワクチンによるものか、新型コロナウイルス感染症によるものかを見分けるには、発熱以外に、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状がないかどうかが、手がかりとなります。  
(ワクチンによる発熱では、通常、これらの症状はみられません。)

※ ワクチンを受けたあと、2日以上熱が続く場合や症状が重い場合には、医療機関等への受診や相談をご検討ください。

## 新型コロナワクチン接種に行く前のご注意

- かかりつけ医療機関がある方は、かかりつけ医に本ワクチンの接種の可否について事前にご相談ください。
- 下記に該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

### 本ワクチンの接種が受けられない方

- ① 明らかに発熱（37.5℃以上）している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 本ワクチンの成分に対し、重度の過敏症の既往歴のある方
- ④ 上記以外で、予防接種を受けることが不適当な方

### 本ワクチン接種にあたって注意が必要となる方

- ① 抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または血友病など凝固障害のある方
- ② 過去に免疫不全の診断を受けた方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ③ 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- ④ 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ⑤ 過去にけいれんをおこしたことがある方
- ⑥ 本ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方

なお、妊娠または妊娠している可能性がある方、授乳されている方は、必ず接種前に診察医師に伝えてください。

高齢の方は、ご自身の健康状態について、接種前の診察医師に伝えてください。

### 本ワクチンを接種してからの過ごし方

- 本ワクチンの接種を受けた後しばらくの間は、接種を受けた施設でお待ちいただき、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師、看護師等へ連絡してください（急に起こる副反応に対応できます）。
- 本ワクチン接種後も基本的な感染予防対策（マスク着用、密集・密接・密閉の回避、手洗いや咳エチケット等）が必要です。
- 接種した部位は清潔に保つようにし、接種当日の入浴は問題ありませんが、接種した部位はこすらないようにします。
- 接種当日の激しい運動は控えましょう。
- 本ワクチンは2回接種する必要があります。1回目の接種後、3週間の間隔でできるだけ速やかに、2回目の接種を受けてください。